

名刀 御神宝



Masterpiece Swords, Sacred Treasures and Ritual Implements of Nikko Futarasan-jinja Shrine

# ◆ 記念図録 ◆

日光二荒山神社

# 名刀 御神宝



国宝 大太刀 銘 備州長船倫光 貞治五年二月日  
貞治五年（一三六六）の刀身に刻まれた俱利伽藍龍文



図録 見返し部分：男体山と中禅寺湖  
写真撮影：小林孝行 © 2019



現在の本社御本殿は今を遡ること、400年前の元和五年(1619)に徳川二代将軍秀忠公により現在の地に新たに造営建立・寄進されました。建立後、初めての大規模修復保存工事を平成26年(2014)～令和2年(2020)にかけて行ないました。その大修理保存事業および竣工を記念した出版です。

## 図録仕様

### [監修]

メトロポリタン美術館武器武具部名誉特別顧問  
ポストン美術館日本武器武具名誉キーパー

**小川盛弘氏**

### [装幀]

・A4判変型(297×225mm) 縦型  
・表紙：小口折  
カラー頁：88頁  
モノクロ頁：120頁  
総頁合計：208頁

**定価：¥3,500(税込)**

※ Web ページおよび中宮祠博物館にて販売中



# 本書の内容

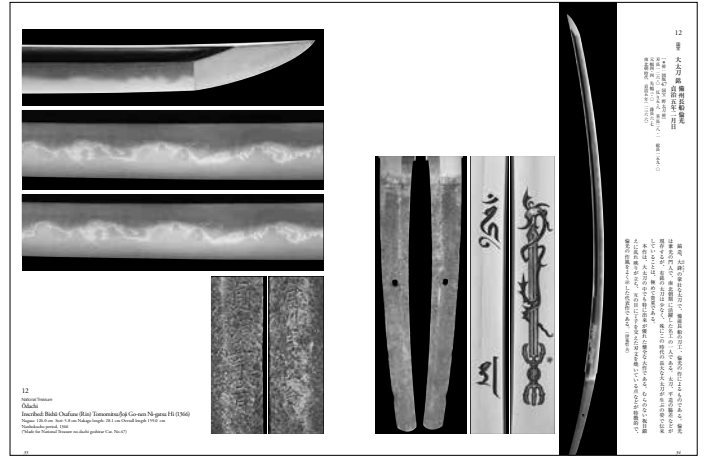
● 起源は開山が奈良時代末、1238年前の天応二年（782）まで遡る日光最古の神社・日光二荒山神社の数ある至宝より選りすぐった名品を一同に紹介！

● 平成11年（1999）に世界遺産にも登録された貴重な本社建造物群とその収蔵品（御神宝）の優品を豪華なカラー図版およびモノクロ図版で紹介。

● 所蔵作品図版件数 = 92件、全図版 = 421点（カラー図版：170点、モノクロ図版：251点）  
 刀剣類については刃文をはじめとして、これまでの刀剣関連図録でも類を見ない部分拡大写真を駆使して、圧倒的な迫力と鮮明な画像を基に解析。

● 刀剣研究家として世界的に著名なメトロポリタン美術館名誉特別顧問・ボストン美術館名誉キーパー 小川盛弘氏の監修により、二荒山神社所蔵の刀剣類を一点一点丁寧に解説！さらに刀剣以外の作品にも各界の専門家が丹念な調査・考察を経た詳しい作品解説を併せて掲載！

● 図版頁では各作品の名称および作品データ類については英文訳も併載！さらに巻末には、愛好者、研究者のために、掲載図版のリストと各章の概説についても英文訳を掲載。



## ◆ 日光二荒山神社コレクション（御神宝）の特徴 ◆

日光二荒山神社御神宝の内、その大半は現在中禅寺湖畔に位置する中宮祠宝物館に収蔵されている。そのコレクションの中核をなす刀剣類は刀剣:200口以上、鉾:195口、短刀:75口、刀子:460点以上を超える膨大な数を占め、内、国宝:2口、重要文化財:16口、栃木県文化財:10口の指定品を蔵し、大小刀剣・薙刀等は176口に及ぶ。—— ①

加えて、開山された奈良時代末期から江戸時代に至る永い年月に男体山（二荒山）山頂に埋蔵された遺物群は夥しい数に上り、そのジャンルも法具、鏡類、玉類、銅印、古銭、陶磁器から農工具、武器武具までと多彩で、その総数は優に1万点を超える。中には歴史的に貴重な年紀が刻まれた出土品や珍しい様式の考古品も数多く、その殆どが重要文化財として一括で指定を受けており、「**山の正倉院**」とも呼ばれるほどの一大コレクションである。—— ②

● 当図録には前述のコレクションより厳選された優品をはじめ、明治～大正期に皇族より御下賜頂いた御物類も併せて掲載。特に昭憲皇太后（明治天皇妃）より下賜された「御所車香炉」は明治時代の金工芸の粋を集めた逸品！貞明皇后（大正天皇妃）より下賜された「金梨地雪月花蒔絵硯箱」も源氏物語を彷彿とさせる蒔絵芸術の優品。見応え充分な撮りおろしの画像。—— ③

● 全国の数ある神社でも珍しい、現存する最古期の南北朝時代（14世紀）に製作され、昭和時代まで長きに亘って使われた（600年以上に亘り実際の神事で用いられた）貴重な御神輿や馬具等の御神宝類をあらゆる角度から撮影し、ふんだんなカラー図版で紹介。—— ④

● 図録後半には、監修の小川盛弘氏による論文3本を掲載。中でも、当図録のために書き下ろされた「神風は吹かなかった一名刀 日光長光の出現」は、氏が長年に亘る地道な調査と研究の末に、当社にて所蔵の一本の拵（重要文化財「金銅鶴文沃懸地太刀拵」）と現在、上杉博物館にて所蔵される名刀「文永長光」をめぐる数奇な流転の変遷（日光二荒山神社→豊臣秀吉→上杉景勝）を見事に解明することにより、これまで通史で語られてきた“元寇”の内、「文永の役」の勝利は、実は従来唱えられた神風（台風）による偶然ではなく、当時の鎌倉武士を中心とした日本全国から集まった

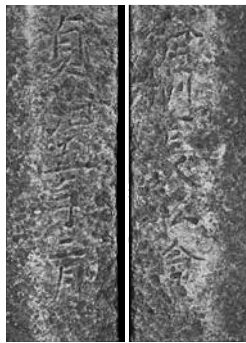
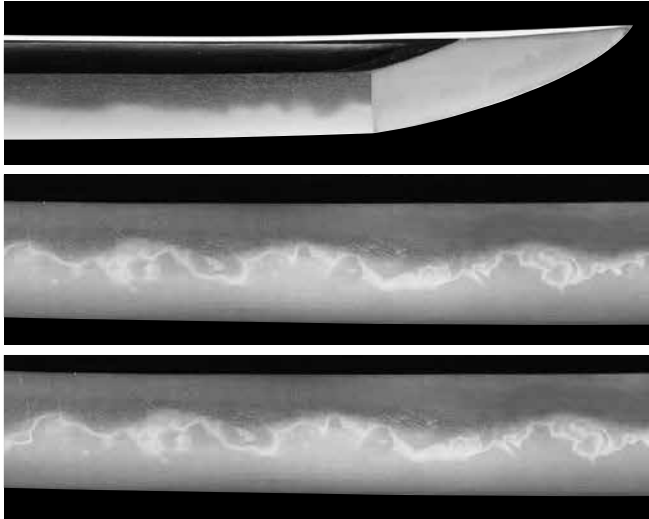
武士団による乾坤一擲の奮戦により蒙古の大軍を打ち負かしたものであった、とする内容で、斯界に一石を投じる氏の渾身の論文である。

◇……（前略）重要文化財「金銅鶴文沃懸地太刀拵」—— ⑤は破損こそ著しいが、今なお制作時の豪華な余香を残し、観る者を昔日の思いに誘う名品である。その拵には、知る限り、太刀拵に鑄まれた年紀としては日本で最古の「建治二年（一二七六）卯月二十二日紀」が鑄まれているのだが、私はこの優品をつぶさに調査・検証するにあたって、なぜこれ程古い時代の拵がこの山深い日光の二荒山神社に伝来したのか？という素朴な疑問に行き当たった。……（後略）——本文「はじめに」より引用——

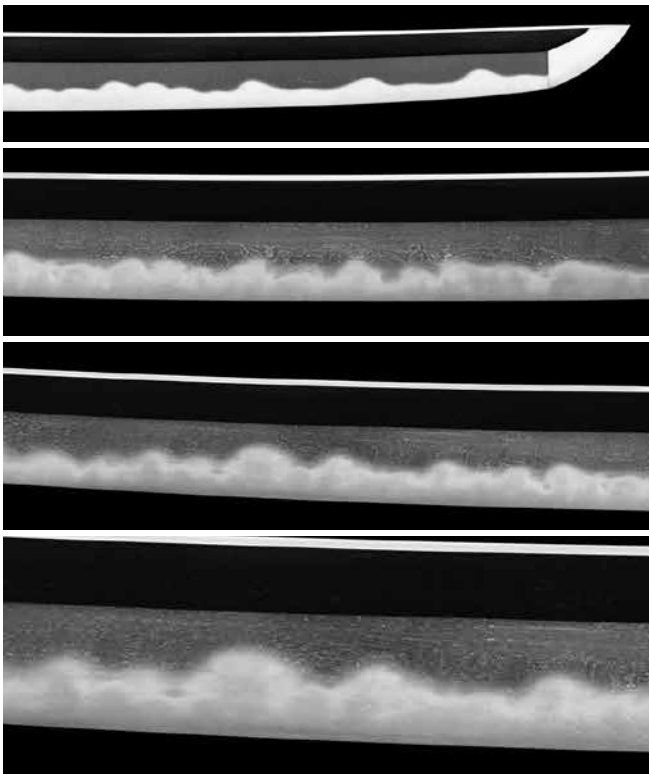
◇……（前略）文永年紀のある長光の太刀が、この打刀拵の鞘に収納されれば、この長光は「高瀬長光」ではなく「日光長光」であることを証明できると発想した。そこで刀身を鞘に入れて見た処、何の障害もなく見事鞘に納まった。よって、この太刀は「日光長光」であることが証明、確定された瞬間であった。……（後略）——本文「日光長光再発見」より引用——

◇……（前略）それら類似の書物を信じた後世の知識人達が次第に「神風神話」を増幅し、己の都合の良いように利用した結果、時の為政者の「神風演説」や「神風特攻隊」の名の下に、無辜の民や前途洋々の若者が数多く犠牲になったことは周知の事実である。ここに銘記し、自戒と御霊への祈りとする。……（後略）——本文「おわりに」より引用——

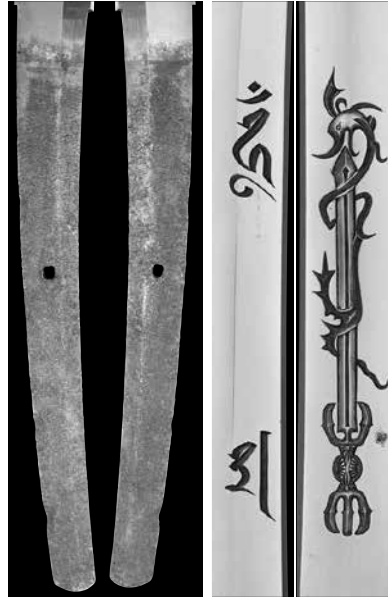




12  
National Treasure  
Odachi  
Inscribed: Bishū Osafune (Rin) Tomomitsu/Joji Go-nen Ni-gatsu Hi (1366)  
Nagasa: 126.0 cm. Soru: 5.8 cm Nakago length: 28.1 cm Overall length: 159.0 cm  
Nanbokuchō period, 1366  
(\*blade for National Treasure no-dachi goshirae Cat. No.47)



34  
Important Cultural Property  
Tachi  
Signed: Yoshihira  
Blade Length: 74.0 cm Curvature: 2.6 cm Overall length: 94.6 cm  
Mid Kamakura period, 13<sup>th</sup> C.



備光は兼光の豪壮な太刀で、備州長船の刀工、備光の作によるものである。備光は兼光の門人で、南北朝に活躍した名工の一人である。太刀、平造の脇差などが現存するが、有銘の太刀は少なく、殊にこの時代の長大な太刀が生ぶの姿で伝来していることは、極めて貴重である。  
本作は、大太刀の中でも特に出来が優れた傑作である。むらのない鍛えと乱れ映りが立ち、互の目に丁子を交えた刃文を焼いている点などが特徴的で、備光の作風をよく示した代表作である。(伊東重夫)



吉平は鎌倉時代中期の備前(岡山)一文字派の刀工である。福岡一文字派は鎌倉時代中期に興り、甚だ「一」とのみ切る刀工の他に、期宗や助宗など個別的に切る刀工があり、吉平の活躍した鎌倉時代中期に丁子・重花丁子・袋丁子など日本刀の中で最も華やかな刃文を焼いた。備前時代中期の個別的に切る刀工では、吉平のほか吉房・圓房・助宗などが特に知られている。吉平の現存品は比較的多く、代表作として備前徳川家に伝来した華やかな丁子派の国玉の太刀がある。しかし、多くはこの太刀のようにやや小規模な出来である。  
この太刀は、地獄に現れた乱れ映りや、丁子の刃文など一文字派の作風が顕著で、二字に小さく切った銘も多くの吉平に共通するものである。刀身の切付銘である「山口忠兵衛尉平姓重村敦白」に「吉平」の字が添ったものである。刀身の切付銘に「吉平」とあるのは、吉平の切付銘に「吉平」とあることである。(三浦大)



原寸大

75 重要文化財 銅錫杖頭 銅錫杖頭 長18.7 唐代もしくは金員一平安時代(8~11世紀頃)

75 Important Cultural Property Head of a Monk's Staff (with depiction of Nyorai, Heaven and a Monk) Bronze Height: 18.7 cm Heian Period, 8th to 11th C. (Probably Tang Dynasty)



裏面

昭和三十四年の調査で出土。銅錫杖頭が山岳持... 銅錫杖は、お山における修験道の興隆を良く示す... 銅錫杖は、お山における修験道の興隆を良く示す...



74 重要文化財 金銅羯磨 銅製羯磨/鍍金 長14.0 平安時代(8~11世紀頃)

74 Important Cultural Property Katsuma (vardra type ritual implement) Gilt Bronze Length: 14.0 cm Heian Period, 8th to 11th C.

73 重要文化財 金銅独鈷杵 銅製独鈷杵/鍍金 長17.0 平安時代(8~11世紀頃)

73 Important Cultural Property Dokkosho (vardra type ritual implement) Gilt Bronze Length: 17.0 cm Heian Period, 8th to 11th C.



81 重要文化財 金銅線刻千手観音像懸仏 銅製鏡/鍍金 径13.2 鎌倉時代 建久6年(1195)

81 Important Cultural Property Gilt Mirror with Line Engraving of Senju Kannon Bronze Diameter: 13.2 cm Kamakura period, Inscribed 1195

昭和三十四年の調査で出土。薄い銅板を、両肩... 銅板に線刻された千手観音像は、直接男体山の主尊神... 銅板に線刻された千手観音像は、直接男体山の主尊神...

大正十三年出土とされるが、明治時代発見の可能性が... 鏡板の中央、その左右に各々打ち出づりの尊像をかきめぐり、全体三尊... 鏡板の中央、その左右に各々打ち出づりの尊像をかきめぐり、全体三尊...



79 重要文化財 日光三所権現懸仏 銅製鏡板/鍍金 径24.1 平安時代(8~11世紀頃)

79 Important Cultural Property Plaque with the Nikko Sansho Gongen Buddhist Figure Bronze Diameter: 24.1 cm Heian Period, 8th to 11th C.



80 重要文化財 種子懸仏(キリーク) 銅製鏡板/鍍金 径18.9 室町時代(14~16世紀頃)

80 Important Cultural Property Buddhist Plaque with Sanskrit Character Bronze Diameter: 18.9 cm Kamakura to Muromachi period, 14th to 16th C.

大正十三年出土。銅製鏡板。やや厚手の銅板を円形に切り抜いて鏡板とし、... 鏡板の中央に銅板を打ち出して立体的な尊像を出した別つくりの蓮華が左右の鏡でめ... 鏡板の中央に銅板を打ち出して立体的な尊像を出した別つくりの蓮華が左右の鏡でめ...





御所車型の香炉である。車台は、轆を赤銅とし、車輪は、赤銅地に素銅の象嵌を施して細部を表す。母屋を火舎として、轆を取り外し可能な香炉蓋とする。轆は銅板に彫金で網代の様を表し、細壁には金・銀・真鍮等の色絵象嵌で、糸瓜の花や実と蔓が絡まる様を写実的に表現する。前後の轆は、赤銅製の板に網刻で御座の様を彫り表し、縁廻りの椅子を透彫りとして挿出しとする。母屋内層の中央に一段高い炬座を設け、金無垢打ち出しの三足付香炉鉢を据える。また、車台・母屋ともに要所には金無垢の八双金具や覆輪を施して、総体に御所豪華な御所車、江戸時代以来の装剣金工を継承する伝統的彫金技術の粋を尽くして写実的に造形されている。明治金工の傑出である。

明治三十三年一九〇〇五月昭憲皇后より皇省の慶賀すなわち皇太子嘉仁親王と九条節子妃の御成婚に際して、当社に下賜されたことが、箱書に記される。(伊東晋志)

1 御所車香炉

銅製/金、銀、真鍮、赤銅等  
 (御所車)：長 28.0 cm 幅 14.4 cm 高 18.0 cm  
 (鉢)：口径 5.0 cm 胴径 5.8 cm 高 4.7 cm  
 明治時代 (19世紀)  
 伝来 昭憲皇后御物 (明治 33年 5月御慶事御品)

1 Incense Burner and Stand in the Form of a Carriage

Shakudo, Copper, Gold, Silver  
 Carr Length: 28.0 cm Width: 14.4 cm Height: 18.0 cm  
 Bowl Mouth: 5.0 cm Bowl Body: 5.8 cm Height: 4.7 cm  
 Meiji period, 19<sup>th</sup> C.  
 Provenance: a gift of the Empress Shoken.



左から刀拵、拵柄、鍔、拵、拵 (2本)



見込 (左) と蓋裏 (右)



49  
重要文化財  
金銅装神輿



右2.9.50. 51. 52



50 前輪部分



50 前輪部分



51 前輪部分

50 ~ 52  
Important Cultural Property  
Gilt Decorated Saddle and Horse Fittings  
Nambokucho period, 14<sup>th</sup> to 16<sup>th</sup> C.



54 重要文化財 薙刀無銘 伝大相宗

重要文化財 薙刀無銘 伝大相宗  
 刃長六一〇、反り五〇、茎長六六〇、総長二七〇〇、刃幅一〇〇  
 鎌倉時代前期、南北朝時代、十二世紀後半、十三世紀前半

鎌倉時代にまでさかのぼる薙刀の生本で現存する作は少ない。本作は刃が張り反る、刃文がかなり湧しているので鎌倉末期から南北朝にかけての頃の伝大相宗の作と思われる。(小山登)



58 重要文化財 金銅装束薙刀拵  
 刃長三二〇、柄長一四八五、拵長七二五  
 南北朝・徳山時代、十四世紀後半



54 Important Cultural Property  
 Naginata  
 Unsigned  
 Blade Length: 61.0 cm  
 Kamakura to Nanbokuchō period, 13th to 14th C.



64 重要文化財 唐銅燈籠  
 作者：三村六郎守季  
 銅製鑄造  
 高 230  
 鎌倉時代 正徳5年(1292)  
 伝末 鹿沼佛三郎入道教阿奉納

64 Important Cultural Property  
 Bakedōrō Bronze Lantern  
 Bronze  
 Height: 230 cm  
 Kamakura period, 1292



銅製鑄造、六角形の燈籠である。基壇(華墩)蓮華形反花、竿、中央に蓮珠文帯、蓮華形花、六角型、格子蓮火袋、笠、露盤、擬宝珠等からなる。火袋は五面を格子とし、扉には巴紋透彫を表す。火袋上段に設けられた窓間には、蓮華または獅子のようなレリーフが付されていたと思われる。また、竿上段に線刻による極入筋がある。これによくと天徳五年に鹿沼佛三郎入道教阿が願主となり、常陸の大工三村六郎守季の



六角形の窓透彫

工房で鑄造し奉納されたものであることがわかる。笠、六角型、縁に無数の切込み傷があり、江戸時代の警衛士が夜警の際にお化けと見間違えて切りつけた刀傷との伝承がある。

昭和四十一年に解体修理を行っている。扉庫から竿、中台、火袋、屋蓋の安定化のために内部に支柱等を組み上げて補強しているほか、宝珠や露盤等は、近世以降の後補かと思われる。(伊東寛之)

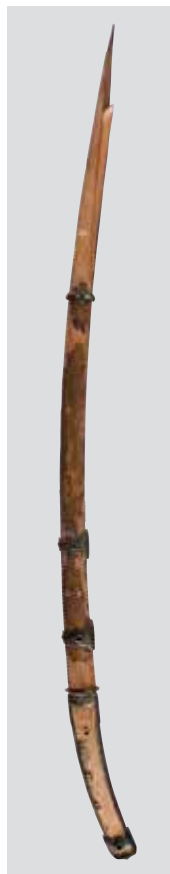


神樂祭具の装具イメージ  
 神樂は当社祭具の祭具の類に当社・鹿尾社・本宮社の神樂として渡附された。  
 写真の神樂は本社のものだが、本来は風流を冠した鹿尾社の神樂に、金銅装束薙刀拵が添えられていた。



「奉納入中御寺御宝殿御明 藤佐野左兵衛次郎藤原氏御当人悪性坊良海」の銘文

「建治」年卯月二十日の銘文



40 重要文化財 金銅銘文・懸地太刀拵  
 『刀』、国29重要文化財 太刀無銘号後五  
 棟九四二・柄三九六・柄長七四一  
 鎌倉時代 建治二年(一二七二)

柄は木地で、その上の装具をほとんど失っているが、裏側に薄い紙が貼り、その上から脱皮をさせているのが残り、棟方と刃方に金銅素文の覆輪を施す。依前は表五個はすべて欠失し、裏に金銅松枝文が二個残存する。兜金は無文。鐔は欠失し、小剣付の小切一枚が残る。

鞘は、木地に短い一枚の布を縫って世津を縫り、その上を金沃懸地とするが、黄金から形にかけて欠損し、石室金物は欠失している。足金物は瓶子形猪目を通かしてあり、その余白には文様を施さず。槽金に飛鶴文を太く纏刻する。黄金は松鶴文を金銅製跡にしている。柄の覆輪棟方に「奉納入中御寺御宝殿御明 藤佐野左兵衛次郎藤原氏御当人悪性坊良海」、刃方に「建治二年卯月二十日」の銘文を針書きする。

鞘を沃懸地とし、佐伏太刀は、平安時代では奈良・淡路神社の兵庫頭太刀、奈良・春日大社の熊野兵庫頭太刀、鎌倉時代では東京国立博物館の群馬兵庫頭太刀が知られている。この太刀は帯柄欠失しているが、兵庫頭太刀であった可能性が考えられる。覆輪に施された銘文から、下野国佐野庄(栃木県佐野市)の家族佐野氏の阿曾道宗にその名が見られる氏綱の奉納であることが知られる。奉納路のある太刀としては、愛知・熱田神宮の永仁二年(一一九二)銘の鶴丸兵庫頭太刀があるが、足金具の形式がこの太刀は瓶子形で無文としているのに対し、熱田太刀は鶴文を全面に纏刻としており、本作の方が形式的にも同様であることが認められる。

原田 悠



40 Important Cultural Property  
 Hakaeji Ground Tachi-goshinae with Gilt Crane Design Fittings  
 Overall length: 94.2 cm  
 Kamakura period, 1275  
 (\* koshirae for blade Cat. No. 28)

※ 新型コロナウイルスの影響により、当社も例外なく、中宮祠宝物館にて当図録に合わせて開催予定の「名刀 御神宝」展覧会がまだ開催出来ない状態ではありますが、宝物館では、常設展(神輿や一部刀剣類、考古遺物等)は変わりなく普段通りに拝観出来ます。日光観光、あるいは男体山登頂の折、お立ち寄り、是非ご観覧ください!

● 当図録は本社および中宮祠博物館にて好評販売中!

販売価格：¥3,500 (税込)  
 ISBNコード：978-4-600-00757-7

当「名刀 御神宝」図録が日光二荒山神社の歴史や由来、そして当社の所蔵品(御神宝)に対する一層の理解と興味を喚起する一助となれば、望外の幸せです。

監修:

メトロポリタン美術館武器武器部名誉特別顧問  
 ボストン美術館日本武器武器名誉キーパー

小川盛弘

作品解説および概説解説者紹介(順不同)

小川盛弘

原田一敏(東京藝術大学名誉教授・福山美術館館長)

三角正人(塚本美術館館長)

原田昌幸(文化庁文化財部第一課主任文化財調査官)

伊東哲夫(文化庁文化財部第一課文化財調査官)

川瀬由照(早稲田大学文学学術院教授)

鈴木泰浩(当社附属宝物館館長補佐)

図録目次

ごあいさつ 日光二荒山神社宮司 中麿輝美  
 「日光二荒山神社 名刀 御神宝」監修にあたって 小川盛弘

図版

特別展覧 皇族ゆかりの御下賜御物

・作品解説執筆者: 伊東哲夫

I章 名刀編

・作品解説執筆者: 小川盛弘、伊東哲夫、原田一敏、三角正人

II章 御神宝の名品

・作品解説執筆者: 伊東哲夫、川瀬由照

III章 男体山頂奥宮出土の名宝

・作品解説執筆者: 原田昌幸、伊東哲夫

男体山頂遺跡の発掘調査 鈴木泰浩

神風は吹かなかった一名刀 日光長光の出現— 小川盛弘

大太刀と長巻 小川盛弘

日光と豊後国行平 小川盛弘

重要文化財新指定 薙刀 相関図一覧

資料図版目録 掲載刀奉納年及び奉納者一覧表

執筆者・写真撮影・写真提供・協力機関・協力者

監修を終えて 小川盛弘

List of Works ポール・マーティン

©2021 日光二荒山神社

©2021 Nikko Futarasan-jinja Shrine